

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300652		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム百楽苑 1		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町南寺戸12-1		
自己評価作成日	平成26年8月28日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

蒲郡市東部にある三谷海岸を眼下に見渡す山の中腹に位置し、蒲郡祭りの花火大会、竹島水族館、三谷祭りを始め、地元の行事に参加したり、近所の保育園への散歩や交流、公園へ散歩したりおやつをそこで食べたり、職員とともに近所のスーパーへの買い物を行い、地域の中で生活することを大切にしています。また、保育園や小中学校の行事や資源回収等を通じ、交流や協力を行っています。認知症についての理解を深めていただくため、地域向けに「認知症よろず相談」を周知したり、認知症家族の会への参加をし、地域からの要望があれば包括支援センターや法人内の他グループホームと協働で認知症サポーター講座を予定しています。また、家族交流会では、縁日形式のお楽しみコーナーにチャレンジしていただき、楽しみながら運動機能の維持を図り、賞品がわりのおやつを利用者様と手作りして準備することで、参加の意欲を高める工夫をする予定です。ほぼ毎日、運動不足にならないようテレビ体操を行ったり、散歩や日常の家事を行っています。「共に思いやる心」を運営理念とし、利用者様と職員、利用者様同士がお互いに理解し、協力しあい、役割をもって共に生活することを心がけて支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状態変化が確認できる24時間シートを活用することで、職員の観察力や介護技術の向上を図っている。利用者の思いに寄り添った個別ケアサービスを重視しているが、外出支援やおやつ作りを充実させて、利用者が仲間同士で楽しい生活が過ごせるようにも努めている。家族交流会で認知症の講和を行ったり、おやつを一緒に作るなどの工夫をして家族との交流に努めている。事業所の外に掲示板を設置し、「認知症よろず相談承ります」と掲示して、地域で認知症を理解して貰えるように啓蒙に努めている。1年間の日頃の様子が写真入りで分かり易く説明しているパンフレットを作成して、グループホームへの理解を深めて貰えるように努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価結果(全体)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し常に目に留まるようにするとともに、毎朝、唱和をし理念の共有に努めている。	事業所の理念である「共に思いやる心」を毎朝唱和することで、理念を意識したケアサービスが実践できるように努めている。また、新人職員には入社時に理念が理解できるように十分な研修を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お相撲さんと保育園児の交流会、ボランティアによる大型紙芝居や歌の交流、保育園や小学校、地域のお祭り等への参加を行っている。	町内会の回覧を見て、地域の風習行事でもある還暦の人の餅投げに、利用者と参加している。また、保育園の発表会の予行演習を見学したり、小学校、中学校の資源回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で認知症サポーター養成講習を行うこととしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況の報告等の意見交換及び家族アンケートの結果報告、外部評価の結果報告、苦情処理委員会の報告を行っている。また、その内容に関する質疑応答により、意見をサービスに反映している。	26年度2月から、会議に法人の同法人の他地域のグループホーム職員が参加している。会議は入居状況及び活動報告、その他無断外出についてなど、様々な議題について話し合われている。参加者からの意見や助言は、真摯に受け止め運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護更新、事業所変更届等の際に情報交換を行っている。また、事故報告書を届け出る際に、適切な助言を得ている。	市役所長寿課とは、手続きなどで出向いた時に情報交換を行い、また、電話で利用者への対応についてを相談している。介護相談員の訪問があり事業所の現状を見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の施錠は行うが、帰宅願望に対しては、その方の興味があることで気を紛らわせたり、散歩に出かけ気分転換を図っている。また日常業務で不適切な声かけ等、拘束に繋がる恐れのあるケアを無くすよう職員間で常に話しあうようにしている。	同法人合同で身体拘束防止の研修が定期的であり、また、職員会議などで時折話し合われ、身体拘束についての正しい理解がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、言葉での虐待が起こらないよう職員間で注意し、適切な言葉がけをするよう心がけている。虐待に関しては、虐待に関する研修を通じ職員の意識を高め、不適切な声かけが虐待につながることを認識できるよう全体ミーティング等で申し合わせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を利用されている方、保佐人がついていらっしゃる方がいるので、全体ミーティングで学ぶ機会を設けた。また、実際に利用されている利用者様の後見人と定期的に情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の問合せ時に費用について説明を行い、入居時には重要事項説明書に基づき入居、入居時のサービス等について説明し、不明なことがあればそのつど丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろの家人の面会時及び家族交流会や行事等での希望や問合せ等でご意見を伺い、希望に添えるよう行っている。	家族の面会は多く、その都度要望など聞くように努めたり、電話をかけて情報交換を頻繁に行っている。家族の要望で部屋に呼び出しブザーの設置をした事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやフロア会議を定期的に行い意見交換している。	管理者と職員は日頃から相談しやすい関係となっている。職員会議や年2回は管理者と面接する機会があり、要望や提案などを伝えている。管理者が判断できない事案については法人の上司に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の勤務評定時に意見交換を行い、努力目標の設定及び具体的な実施事項を決定し、各自の意欲向上に沿った支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の取り組みとして、リーダー研修を行い資質向上に努めている。また、法人内及び外部の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河支部に参加し、情報交換及び研修に参加したり、合同レクに入居者様とともに参加し、ネットワークづくりに努めている。また、蒲郡市ケアマネ部会の研修に参加し、意見交換を通じ交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい利用者様には、丁寧に関わりの時間を増やし、分からないことを気安く聞いていただけるよう接している。また、ご自分の希望や興味があること等、会話の中から引き出し行っていたことで、他利用者様と関わりが持てるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や不安な事を伺い、過去の事例を紹介して不安を和らげられるようお話をさせていただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に、ご希望をうかがう際、施設でできることをお話し、他事業所の方が望ましい場合は、他サービスの利用についてご説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることは日常生活の中で行っていたい。また、見守りや助言等でできる範囲での家事と一緒にいき、一緒に生活しているという状況を作っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も良好な家族関係を続ける事ができるよう、近況報告や情報交換を行い、要望を伺い一緒に支えていく関係作りに努めている。ご家族様が負担なく協力していただけることは依頼している。また、行事参加の依頼や面会しやすい雰囲気作りを心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店への買い物を通して地域関係の維持を図っている。	入居前の知人が面会に来てくれたり、家族の協力で墓参りなどを行っている。また、年賀状などを馴染みの人に出しており今までの関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が図れるよう座席の工夫をしたり、居室に閉じこもりがちになっしまわれないよう、体操やレク、家事、おやつ作り等への参加の呼びかけをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり退居されたへのお見舞いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援を基本とし、ご本人が自分で選択できるように支援し、その意向を確認してサービスを提供するように努めている。	おやつや時間などに一緒にお茶を飲みながら、ゆったりとした気分で利用者と向き合い、要望や希望を聞くように努めている。難しい場合は、日頃の様子からや家族から聞き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録やご家族様の訪問時に生活歴を伺い、今までの趣味・嗜好、経験等を活かすことができるように支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や現状の能力等について、日ごろから把握するよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族様の希望を伺ったり、普段の会話でご本人の希望を把握し、担当者会で意見交換をし、介護計画に反映させている。また、ご本人の希望を把握し、介護計画に反映している。	モニタリングや担当者会議を3ヶ月ごとに行い、評価表を作成し、それを踏まえて新しいプランを作っている。家族より要望や意見を取り入れて、状態に変化があった場合は速やかにプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、職員間で共有し、変化の状態に応じた対応をしている。また、24時間シートを活用したりフロアミーティングや担当者会で対応を協議し、全体ミーティングで実践の検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアとして、ご本人の意向により買い物、食事、墓参り等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや餅投げ、保育園児との交流会、小学校の運動会等に参加し、地域交流を図りながら楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の病院を希望されている方には、送迎介助を行っている。また、専門医の診察を必要とされている方の受診介助も必要に応じて行っている。	入居時にほとんどの人がホームのかかりつけ医に変更し、月1回の往診を受けている。専門医とは情報提供票で、共有できている。受診には職員が同行しているが、必要に応じて家族にも協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状況の変化を看護職に伝え助言を仰いだり、状態と服薬の助言やけがや傷の処置の対応、受診の要否等について相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会を行い、病院スタッフとの情報交換を行い、退院後の施設での生活に支障が生じないように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には施設からは状態や介護の内容について説明し、協力医からは病状説明や処置の内容について説明していただいている。また、ご家族様の精神的な共感を行うと共に衣食住全てで安らぎを提供できるように職員間で統一したケアを行うよう心がけている。	看取りは行っており、重度化してきた場合、医師、家族、職員を交えて状態を話し、ホームで出来ることを説明し、ターミナルの同意書もらっている。また、看取りについての研修は、法人内で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修への参加、また看護師に観察のポイント・急変時の対応を聞くなどして急変や体調不良に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回以上(地震対応、夜間想定)実施し、対応力の養成を図っている。地域との協働については今後の課題である。	目標達成計画に掲げたこともあり、今年度は運営推進会議で避難訓練を2回実施し、その他に2回職員対象に夜間の通報訓練や新人職員やパート中心に日中の火災の誘導訓練を行った。備蓄はご飯、おかゆ、おかず、水などが保管されている。	地域の避難訓練に参加したりして、地域との協力体制を築くことを望む。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修に参加し学んでいる。また、定期的に実施している言葉遣いチェックで振り返りを行っている。トイレ誘導の際は、他入居者様への配慮をしている。	トイレや入浴の際には、プライバシーを傷つけないように、また、言葉づかいでも自尊心を傷つけないように配慮したり、何かする前には必ず声かけをして、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声かけを行い、介護者の一方的な支援によらないようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩、家事等への参加、入浴や休養の希望等において、自己決定できる言葉かけにより、ご本人の意向を伺って行っていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、助言をしながらご本人に選択していただいている。また、化粧品を使用されている方の買い物を支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりのできること、得意なことを活かし、食事の盛り付けやテーブルを拭く等を行っている。また、おやつ作りではできるところに参加していただけるよう声かけをしている。下膳ができる方には運んでいただいたり、食器洗い等に参加していただいている。	法人の厨房より配食されているが、ご飯と味噌汁はホームで作っている。おやつ作りは、利用者も一緒にホットケーキやたこ焼き、五平餅などを作って楽しんでいる。外食で、お寿司や喫茶店などへ出かけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が極端に少ない方は医師に相談し、エンシュアキットを処方していただいている。また、ご自分で召し上がっていただくため、食事形態を変えてお出ししている。むせが気になる水分を控えがちな方には、ゼリーにして召し上がっていただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には洗浄液につける介助をしている。また、自分の歯がある方は、食後の歯磨きの声かけをし、必要な方には仕上げの介助をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が可能な方は、手引きや車椅子でトイレ誘導している。排泄の状況を把握すると共に、本人に合った排泄を行うことができるよう定時誘導及びご自分で行こうとされている際の支援をしている。	チェック表が必要な人は、チェック表を確認しながら支援している。自立の人には後でさりげなく聞いて確認している。夜間はポータブルトイレを使用したり、パット交換をしたり、それ以外は見守りやトイレに付き添っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ摂取量のチェックを行っている。また、ヨーグルトを提供し、服薬に頼らないよう配慮している。また、適度な運動ができるよう、テレビ体操や散歩、入浴時の腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある方には、日時の相談をして入浴いただいている。入浴の間隔とご本人の体力を考慮し、声がけを行っている。入浴剤を適宜利用し、声がけの際に入りたい気持ちを持っていただいている。	9:30～16:00頃まで毎日沸かして、希望する人には入ってもらっている。基本的には一日おきに入浴している。拒否のある人には、時間をおいたり、違う職員が声をかけたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望により日中も必要に応じ休息していただいている。昼夜逆転傾向の方については、無理のない程度に昼間活動を促している。夜間は、ご本人の希望による照明にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のファイルで常に確認できる環境を整えている。服薬間違いをしないよう、薬ボックスにセットし、その方の能力に応じ、手渡しや服薬介助により確実な服用を行っている。便通を良くする薬を服用されている方は、排便の状態を確認し服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味活動について、興味・関心があるものを行っていただいている。また、生活歴の中で実施していたが、行わなくなってしまうことにも興味をもち参加できるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望がある場合は、職員と相談し日時を決め支援している。また、ご家族様等とともに外出できるよう支援している。	日常的に散歩やスーパーへ買物に行っている。月に1～2回外出レクリエーションがあり、季節ごとのお花を公園などに見に出かけしている。個別ケアでは、買物やお墓参りに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、ご家族様の意向とご本人の管理能力に応じ相談している。ご本人が所持金を管理できる方は、買い物の際に使用する場合の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家人への電話ができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に入居者様の作品や行事の写真等を飾っている。空調は、利用者様に伺いながら調整している。清潔を保てるようできる方は一緒に掃除や片付けを行っている。	玄関には利用者が布で作った作品がたくさん並べられており、その他にも壁飾りなどで楽しい雰囲気作りがされている。利用者がモップがけなどの出来ることを手伝い、清潔で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペースに寝転んだり、ご自分の席でテレビをご覧になったり、利用者様同士で会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参していただいている。居室内は小物や趣味の物等で飾りつけを楽しまれている。	昔から使用していたタンスや大切な位牌を持ち込んでいたり、本棚にたくさんの本を置いている人や洋服をたくさん持ってきて、毎日着替えを楽しんでいる人などがいて、それぞれに合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの場所を見やすい文字で掲示を行っている。また、入居者様同士で教えあっている。		